

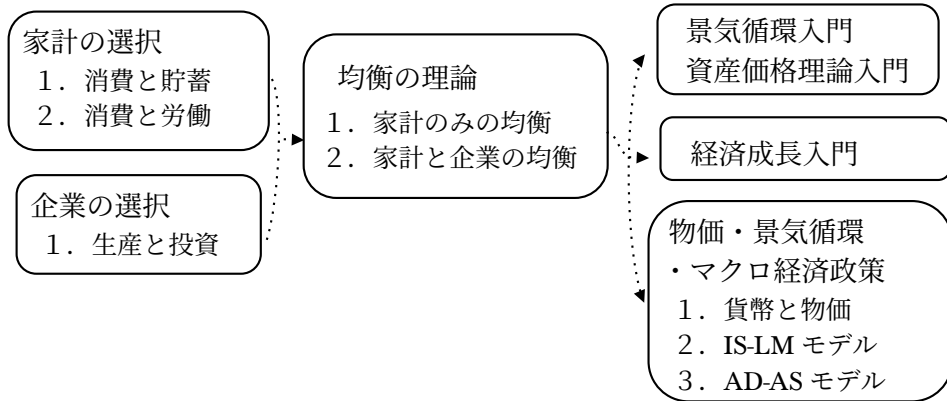
# 基礎マクロ：最後に

日野将志

一橋大学

2021

# これまで学んだ内容



+α

- ▶ 国際マクロ
- ▶ 政策の進んだ議論 (最適金融政策, コミットメントやアナウンスの役割等)
- ▶ 疫学マクロ

# 学んだ成果：なぜ経済モデルを学ぶのか？

## 皆さんの疑問

- ▶ 学んだ経済モデルはどういう役に立つのか？
  - ▶ ⇔ なぜ統計学やそれに基づいたデータ分析\*だけ\*ではダメなの？
  - ▶ ⇔ なぜ史実の研究\*だけ\*じゃダメなの？

## 経済モデルの役割：

- ▶ **Story Telling**：例えば政策変更や経済の変化 (例. 近年の市場の独占化) のメカニズムやその影響の解明
- ▶ **測定対象の絞込**：乗数効果の例だと，限界消費性向
- ▶ **反実仮想実験**：「仮に X が無ければ何が起きてたの？」
- ▶ 他にも，(1) 検証の枠組みの統一，(2) 仮説の検算，(3) 最適性 (最適な政策，行動)，(4) 定量化 etc

Einstein “*It is the theory that decides what can be observed*”

## 補足：Eichengreen, Rebelo, Trabandt (2018 JEP) より

なぜマクロモデルが必要か：誘導系や史実の考察との比較

“To be concrete, suppose we are interested in understanding the effects of a systematic change in policy, like switching from inflation targeting to price-level targeting. The most compelling strategy would be to do **randomized control trials** on actual economies, but that course of action is not available to us. So what are the alternatives?

It is certainly useful to study **historical episodes** in which such a similar policy switch occurred or to use **reduced-form time series methods**, but these approaches also have obvious limitations. In the historical approach, the fact that no two episodes are exactly the same always raises questions about the relevance of a past episode for the current situation. In the case of reduced-form methods, it is not always clear which parameters should be changed and which should be kept constant across policy options. *Inevitably, assessing the effects of a systematic policy change has to involve the use of a model.* ”

## 補足：EBT の拙訳

(※日本語として自然になるように少し意識しています)

「具体例として例えば、インフレターゲットングから物価ターゲットングへの変更のような、政策変更の効果を知りたいとしましょう。このとき、もっとも説得力のある実証戦略は、**ランダム化比較試験**でしょう。しかし、この方法は私たちマクロ経済学者には不可能です。では、代替案はなんでしょう？

確かに、同様の政策変更が起きた時の**歴史的経緯**を参照することや、**誘導系の時系列分析**を行うことは有用です。しかし、これらには明確な限界があります。歴史的経緯を参照する場合、過去と現在の状況が完全に同じではないでしょう。そして過去が現在にどれだけ関連しているかという疑問を起すでしょう。誘導系の場合、どのパラメータが変化したか変化していないかの判断は簡単でない時があります。結果的に、政策効果の検証にはモデル分析が不可欠なのです。」

# 経済学における科学的な方法

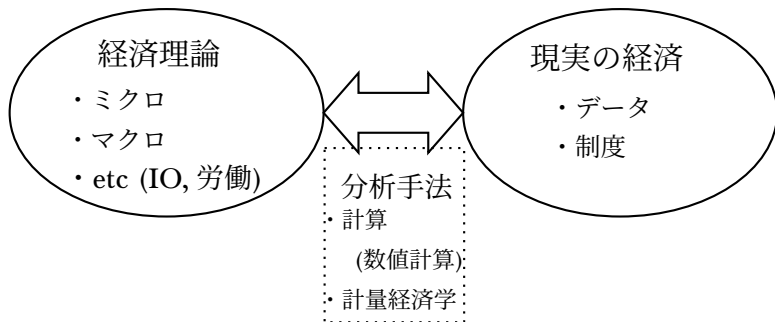
## 科学的な方法

### 1 現実を単純化したモデルを作る

**モデル**とは現実を単純化して描写する数学的対象。再現性のある思考実験の場  
(例：地図と現実，摩擦の無い物理の世界)

### 2 作ったモデルが，データを説明できるかどうかテストする

### 3 作ったモデルを用いて，社会に負担をかけることなく仮想的な政策実験を行い，政策効果を検証する



今後，学んだ理論を活かして，自分の興味・関心のある事象を分析していきましょう

# 今後の学習のために私が好きな本

## ▶ ミクロ：経済学の基本

- ▶ 学部中級：林貴志『ミクロ経済学』，奥野『ミクロ経済学』，神取『ミクロ経済学の力』
- ▶ ゲーム理論：グレーヴァ『ゲーム理論』
- ▶ 学部上級：塩沢・玉田・石橋『現代ミクロ経済学中級コース』
- ▶ 修士：Mas-Colell, et al. "Microeconomic Theory"

## ▶ マクロ

- ▶ 学部中級：Kurlat "A Course in Modern Macroeconomics"
- ▶ 修士：Miao "Economic Dynamics in Discrete Time"
- ▶ コメント：マクロは1冊では勉強しづらく，色んな教科書の一部の章を知ることが求められる（Gali や Ljungqvist Sargent の8章等...）.

## ▶ エコノメ

- ▶ コメント：私が大学院生になって以降，評判の良い教科書がたくさん出てきたから，学部の良い教科書のことはいまだあまり知らない…



# “経済”の勉強

現実経済の勉強のために、私がよいと思う雑誌等

- ▶ 英字新聞/雑誌：Times, The Economist, Financial Times
- ▶ 日本新聞/雑誌：日経新聞『経済教室』，東洋経済 Online『経済学で読み解く現代社会のリアル』，経済セミナー
- ▶ 日本語のレビュー：日銀レビュー，日本労働研究雑誌，東京商工リサーチ『データを読む』
- ▶ シンクタンク：みずほ，ニッセイ基礎研究所

# 論文の分類

- ▶ (通常の) 論文
  - ▶ 新規性が重要
- ▶ ポリシーペーパー等
  - ▶ 必ずしも新しさは重要ではない
  - ▶ 既存の手法で、現実の政策・制度等を分析
  - ▶ 卒論ではこちらを目指すといい
- ▶ サーベイ論文
  - ▶ 各論文の立場を概観
  - ▶ (私はこちらでも十分だと思う、ゼミの先生に要相談)

論文を書けるようになるためには、良い論文をたくさん読んで、技術を盗むしかない

(論文の書き方講座という授業はほとんどの大学で存在しない)

# 良い論文：ジャーナルのランキング

経済学者の目標：たくさん論文を読んでもらうこと  
そのために、良いジャーナルに自分の論文を載せること

## ▶ Top 5

(1) American Economic Review, (2) Econometrica, (3) Journal of Political Economy, (4) Quarterly Journal of Economics, (5) Review of Economic Studies

## ▶ Field Top これはField毎に違う.

### ▶ Macro のField Top

American Economic Journal: Macroeconomics, Quantitative Economics, Review of Economic Dynamics, Journal of Monetary Economics, Journal of Money, Banking and Credit, Journal of Economic Dynamics and Controls.

注意：良い論文 ≠ 難しい論文

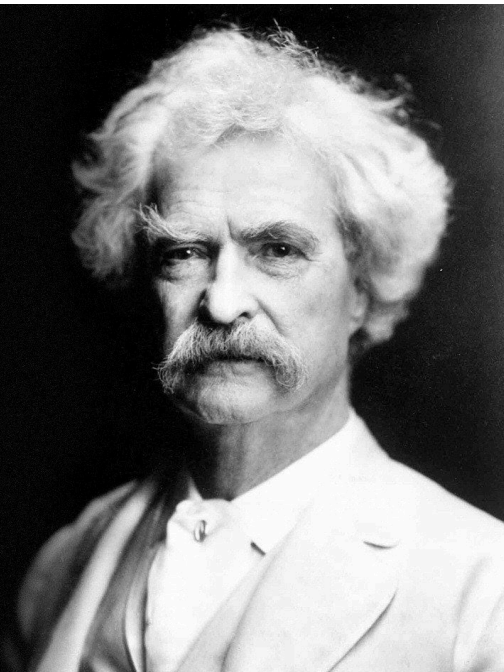
引用回数が多い論文は大事 (主に Google Scholar)

良い論文からたくさん読みましょう

今後に向けて

"Education is the path  
from cocky ignorance to  
miserable uncertainty"

***Mark Twain***



ending

日野将志

今後の学習

卒論等に向けて

*Fin*